

津田文庫
文庫 1
1827
4



010190617462

江の
 ほとけ
 内して
 潮路子
 あら
 ちり
 ちり
 ちり
 ちり

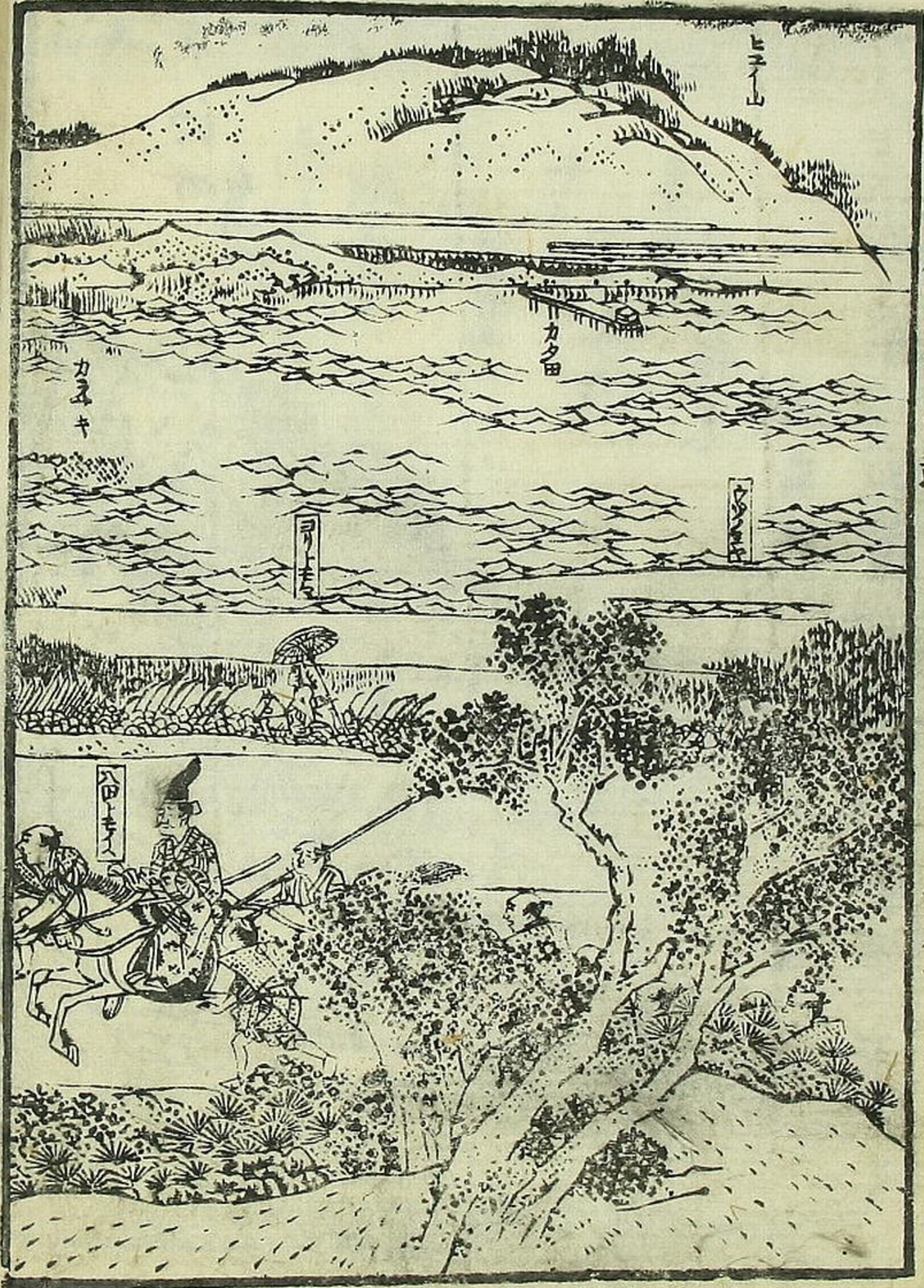
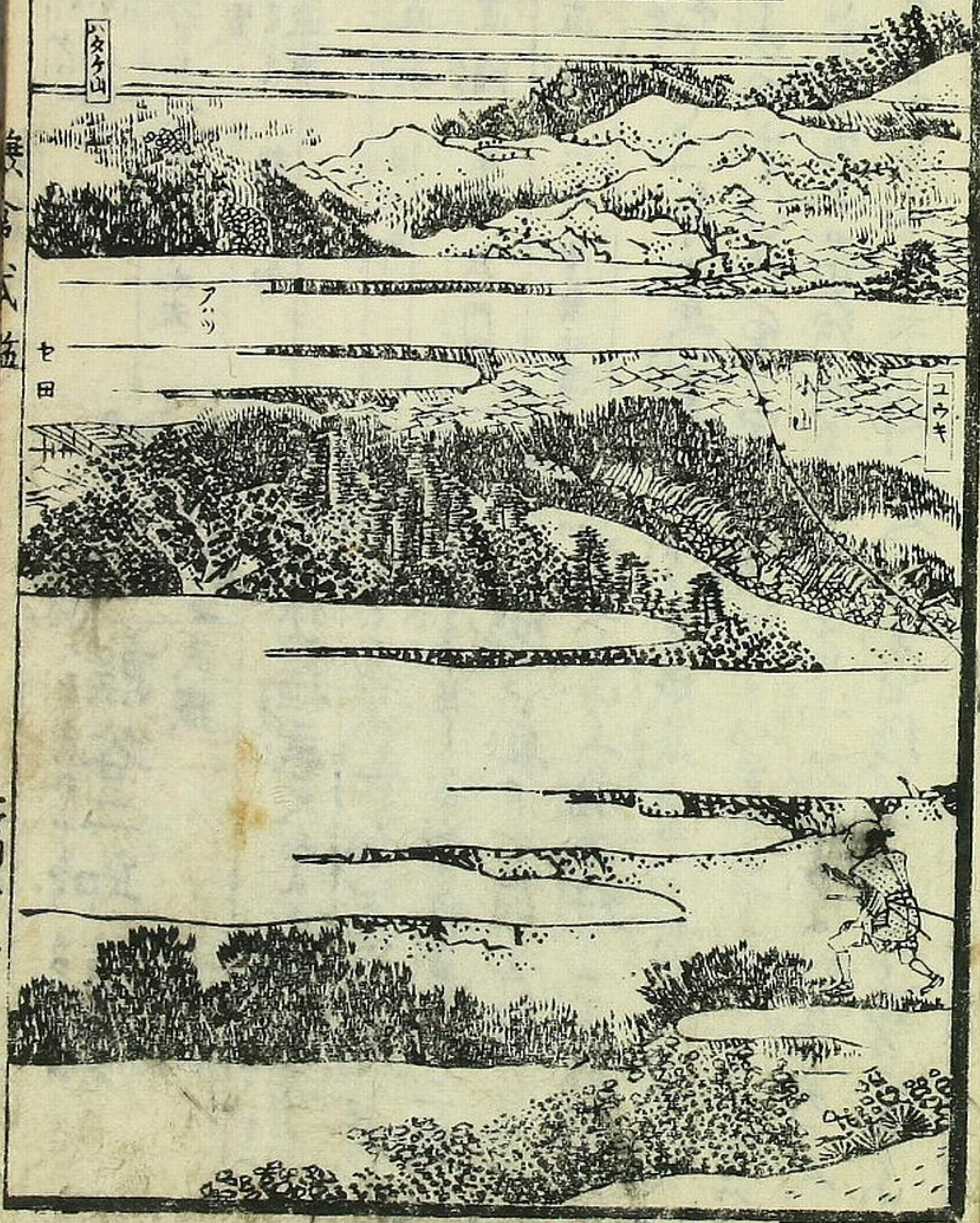
鴨長明

横山

二高



賴朝卿上洛之圖



鎌倉正録

二卷下口

1827-4

不夫吉あれば公平の道程のついでに平のりき終つては
 らいひながら色非くばらしてたのりき我一高もひき
 ちるは吾被るお敷の思由の者な種なりとす
 らぬ今う浮世よき後と申されて警井切ひき
 ありあきらむは美はうりよありて法然と人の事よ
 法師と傳へ一向の彼の事(或は道生法然上人の
 りつりも一更れ一迎接の曼殊師利尊よるけはあ
 りまぬらうりたたりとてはうりまぬらうりまぬ
 らりるはうりたりのうりたりの法然なるか
 らいひながら色非くばらしてたのりき我一高もひき
 ちるは吾被るお敷の思由の者な種なりとす
 らぬ今う浮世よき後と申されて警井切ひき

と冬どりつて冬と冬との楽を者又修終りて人
 とも昔けしむの念ひて近れせん人も今も修終り
 古後あり其まおむらふぬ勇きあて教習の軍
 功あり聖列陣のしれた右幕下におれや政光へ日
 本一の大割のとのありてしる人も二男中衛も
 戦功するありて是のれは塙田のまへむらひ南越の
 たる気とていひ付はきあむらふありやれはけむら
 りみみ甲のひては安忍とては是と二男中衛との
 考へとて安忍のまのまなへはつるもつら安南安
 北の二男中衛をけしむら安忍の徳を周防のたる
 一奴のまなへはつるもつら安南安北の二男中衛を

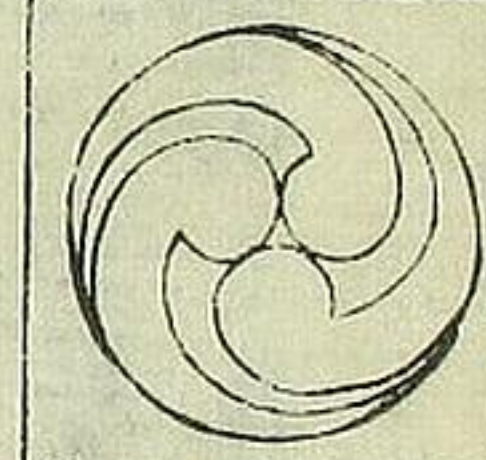
鎌倉武監

新開

土肥節實平一男

平忠氏 新開荒二郎

「泰重 二郎



新開荒二郎忠氏

相摸

忠氏又実平と云ふは依後家系之始
なりと云ふ事一石橋山の軍中
戦ひて山側とてそのまゝとて
あひて新と云ふなり

一宮

平良兼五代山辺禪師頼尊
中村座主宗平三男



二宮七郎朝忠

相摸

平友平 二宮四郎

朝忠 七郎
光忠 小太郎

中村座主宗平三男
ての孫もは

朝忠ハ二肥実平が弟也依後家系之
と云ふ事一石橋山の軍中
戦ひて山側とてそのまゝとて
あひて新と云ふなり

兒王 庄

鎌足平代中関白道隆公代

藤原廣高 庄推守

家長 本庄太郎
廣善 四方田三郎



本庄太郎家長

武藏

家長の又廣高ハ依後家系之始
なりと云ふ事一石橋山の軍中
戦ひて山側とてそのまゝとて
あひて新と云ふなり

廣末	牧西四郎
頼家	庄小太郎
家次	本庄三郎 左門尉
定細	二郎
朝次	新左門尉
時次	左門尉

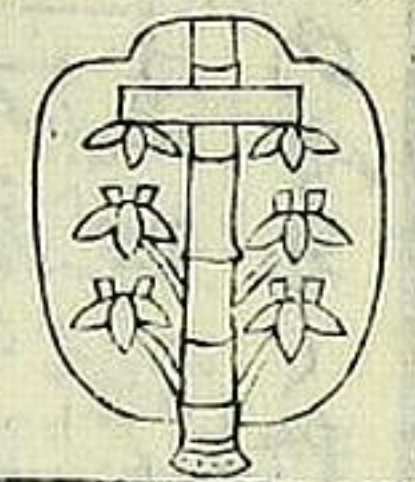
長経の子不登一の谷あり功あり
 宗その子不登一の谷あり功あり
 惟有家田惟川八西富野油方田
 牧細の子不登一の谷あり功あり
 一族小武茂より多村と保氏安
 雲の山の住人赤松若邦別荘と
 しのもの住人赤松若邦別荘と
 右幕下不登一の谷あり功あり
 左幕下不登一の谷あり功あり
 とのいふ所の移りて

富田庄

鎌足公十二代中関白道隆公孫

藤原家行 河内守

家廣	庄小大夫
家遠	塩谷五郎
近家	富田三郎



富田三郎近家 紀伊

近家も見出書に家行の長男家廣の嫡流あり本庄と稱す近家の大カ妻ありて坂東は其名取ありて近家義登が保小と云ふ其カの初めは藤原家行の孫也云々

とて因人ありて鎌倉へある義登て近家が大カと云ふ其カの初めは藤原家行の孫也云々

の角のちと人ありて余ありたる紙二本出されり其紙の裏に彼角二本と一ツ小振り中より二ツは折りて其紙を裏朝に紙始りては近家の大カ名取紙巻て

感心とそよとらりてその罪科赦免ありて紀伊の國にて
 一所懸命の地となりて多治見も其恩に感して世に
 忠臣とありてその孫お侍と

安保丹

宣化天皇第一皇子殖葉皇子
 御子多治見王苗裔秩父丹五



安保刑部丞實平
 武藏

基房三代丹三大夫恒房男
 丹治實平 安保刑部丞

實光 二郎

加地の人ありて丹の國を稱し其子多治見王の孫なりて東國へ下りて武藏の國に
 多治見王の后流中納言縣守となりて大和の國滋田の庄領ありてその嫡孫
 武延始りて東國へ下りて武藏の國に

右幕のありて戦功ありて同日玉棒に於て安保の
 庄の地ありて其子多治見王の孫なりて東國へ下りて武藏の國に
 合戦の時討死を其子多治見王の孫なりて東國へ下りて武藏の國に
 のまの浦及びのまの庄ありて戦功あり

飯田

河内寺頼信三男陸奥寺頼清
 八代孫頼基男

源家義 飯田太郎

義基 太郎
 義清 二郎



飯田太郎家義
 信濃

家義石橋山軍の討へて庭保中納言
 信濃の國にありて其子多治見王の孫なりて東國へ下りて武藏の國に
 佐藤小使とありて其子多治見王の孫なりて東國へ下りて武藏の國に
 忠臣とありて其子多治見王の孫なりて東國へ下りて武藏の國に

其の味方なる富士川にて平家軍の討退討て
 嫡子義基伊豆武者がぬよ付たを父家義基を討て馳
 奔り又伊豆を行かぬ二男義清勇別と鎌倉往か
 孝よりあるの士代ある飯田が富士の俄より大面知
 川の地帯れて門前の橋を流さ義清かこころなり我ふ
 かくらぬ水練のまをたる弁末どかこころの西二丁地遊
 かくらぬ橋の橋もかたもかたもむける右弁下かまひ
 成威ありありあかきけきとくはるどなる

香川

鎌倉

鎮守府將軍良兼五代村岡小五郎
 忠通三代権五郎景政五代



香川五郎經高

相模

平經高

鎌倉五郎

經景 三郎
 美景 四郎

故も海流之布を付えて天ひふ名成あらしき平家戦功
 ありこあるふより平家忠盛はよお列大層のたむありる
 系路の長男を小を平家忠盛と云ふ子長は平家忠盛
 是の父忠盛は二男権六系房をまふ女を平家忠盛
 子権六をまふ忠盛は二男権六系房をまふ女を平家忠盛
 系路の長男を小を平家忠盛と云ふ子長は平家忠盛
 是の父忠盛は二男権六系房をまふ女を平家忠盛
 子権六をまふ忠盛は二男権六系房をまふ女を平家忠盛

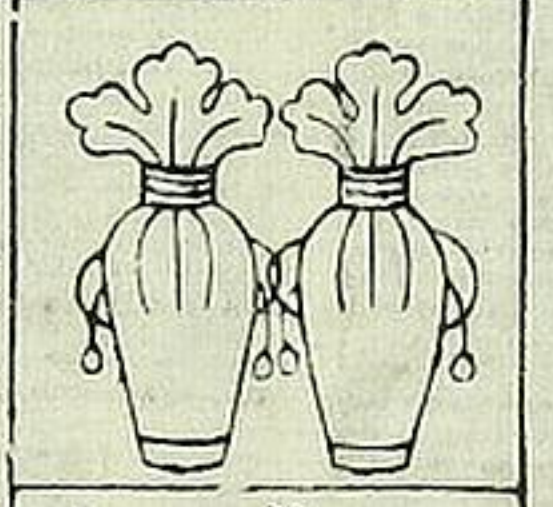
唐一戦功ありあり一守りありて... 伊豆の軍より... 伊豆の軍より... 伊豆の軍より...

宇佐美 伊東

工藤祐經 宇佐美三郎

祐政 三郎 左門尉

祐時 与一 左門尉



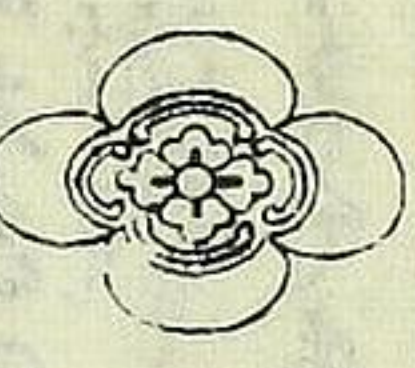
宇佐美左衛門尉祐茂 伊豆

わらあゝ伊豆の國... 上杉より... 伊豆の國... 伊豆の國... 伊豆の國...

工藤

六代 庄司景隆長子 藤原景光 工藤庄司

行光 小二郎 祐光 三郎 朝光 五郎 重光 六郎 長光 中務丞



工藤壯司景光 駿河

系光が祖... 伊豆の國... 伊豆の國... 伊豆の國... 伊豆の國... 伊豆の國...

野光の事... 宗茂の事... 行光の事... 親光の事... 親成の事... 為佐の事... 藤原茂光の事... 遠江守為憲三代伊豆守維景... 四代四郎太夫家次四男... 藤原茂光 狩野介... 宗茂 狩野介 榎津守... 行光 五郎 工藤介... 親光 五郎 狩野介... 親成 五郎 狩野介... 為佐 太宰少貳

狩野

遠江守為憲三代伊豆守維景
四代四郎太夫家次四男

藤原茂光 狩野介

宗茂 狩野介 榎津守

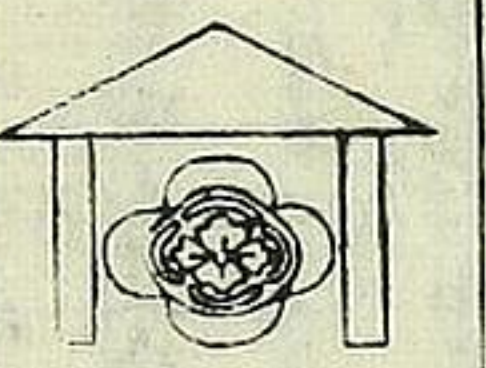
行光 五郎 工藤介

親光 五郎 狩野介

親成 五郎 狩野介

為佐 太宰少貳

けいけい... 月... 高... 狩野介茂光



狩野介茂光

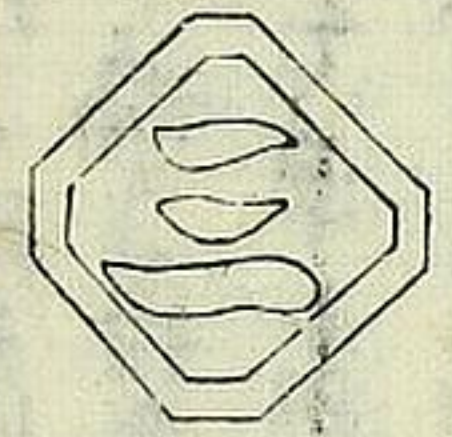
茂光の事... 宗茂の事... 行光の事... 親光の事... 親成の事... 為佐の事... 藤原茂光の事... 遠江守為憲三代伊豆守維景... 四代四郎太夫家次四男... 藤原茂光 狩野介... 宗茂 狩野介 榎津守... 行光 五郎 工藤介... 親光 五郎 狩野介... 親成 五郎 狩野介... 為佐 太宰少貳

二篇下七

肥満て石のあせとふけ喰ひは勝もてあてんとおもひまゝに
 我のつめて自害せん汝等へはあつても身も思ひは後のあま
 不気なるは後世の志氣とて扇とてや成と始りまゝく
 身も心もあつて山は誠んとしてむれども後先をあら
 げかく回言よもまざる敵をさすの事りてよまをうらも
 なたせん早急のたゞとして自害してあてりたるは是未今の
 身も心もあつてま言よすも甲斐の武田よ身をまてそのうち
 家士川の内海へぞまりのる親光はあつて合戦は果てぬが希
 等々の者へとつるあつて一の方と細くしが戦い
 つれうまれば者へあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とりぬ親光はあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 一方のちねうり親光はあつてあつてあつてあつてあつてあつて

肥前の玉城より志保少武とあつて親光はあつてあつてあつてあつてあつて
 志保よりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 志保のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ろりて平をあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 総補使とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

河野



河野四郎通信
伊豫

孝天皇皇子伊与皇子九代
 越智玉純后胤三嶋四郎親清男
 越智通清 河野新太夫

- 通信 四郎
- 通考 五郎
- 通富 六郎

通信の志保伊与皇子尚國へ下向して
 越智のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 志保のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 志保のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 志保のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 志保のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 志保のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

その後、長子伊与子ありて高家より任官の内なる女よ
 かみして一子成役くはせ置給ふありて家成終へむこれ
 二子由命初彦と其のよは世新を又通彦の孫氏と稱す
 深きれは平家と成りて合戦一蘭を紙の敵よこりて成
 能くも教経進向ひ終へ攻落せけりて通彦二男通孝と
 通由と成りて付給ふと嫡子由命通彦の室の爲義のよ
 息あり孫多成ありて平家を継ぐよりて平を以て家
 のことありて成りて成りて右幕下かく河井の勤功の
 人あり成りて成りて伊与子の由成りて三十二人成りて復の海法
 とありて通彦をりて成りて復とあり 少條河成の婿
 ありて是より其勢力の由成りて成りて孫孫孫孫と一族又
 多しと長孫能く言見成りて平家新孫成りて成りて成りて

十八家あり

野木

正田 齋藤

利仁將軍五代帶力長為信眾
滝口基親長子

藤原基貞 野木左衛門尉

時基 二郎 左衛門尉

時貞 三郎

重基 押垂十郎



野木左衛門尉基貞 武藏

利仁の四代孫博のちよるはは少彦
 道の押成候とあり二男の由成りて成りて成りて
 則光と成りて成りて成りて成りて成りて成りて
 成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて
 河合帝成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて
 帝成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて
 成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて

平家退付の御新の御式別々なるへ代奉り奉員これと
 つしむまも子二節時奉りてあはれよあつて百張一すあ
 りち左衛門尉くちくちいれ奉りし子孫お繰りすと
 周より入行田日帯お奉りて守押がえりるが戻代左衛門
 尉以頼とらるあり其子時頼小松の内大臣直家五兵衛
 とりて内裏の御由あるふらうその比の中宮の御女御息
 女まで小松の内府の姉系ありたるゆゑ奉りて御
 授けありその折りの時頼はとつしむ中宮の御女御
 横笛とらり女ありしがりのひまより時頼もとてあつてこ
 うさまくまはひこつしむ御のかけはしのけりしひま
 があつて神の石のかりくまもちかたが袖のつゆをりも
 のちを返せりてせんとあつて年々かかるとあつて御はあ

おろりたる時頼もあつたふしあつてあつて人同士の御の
 おまはひの備はあつていりていりていりていりていりて
 けりて御はあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 くるふかち年々あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 人の聲とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 恥ぢ事とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 いさめと時頼あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 東方朝もむらゝたつてあつてあつてあつてあつてあつて
 の光はにこりたていりてあつてあつてあつてあつてあつて
 其の中あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

て何れもせんおのれが^し入^らぬ^まの^りい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 命^{めい}よ^もそ^もむ^けよ^もい^しる^まの^りい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 どの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 家^け紙^し出^で渡^わ渡^わの^りい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 なる^ら横^{よこ}笛^{ふえ}け^りい^し入^らぬ^まの^りい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 つ^つの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 と^との^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 也^や或^{ある}夕^{ゆふ}つ^つの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 の^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 も^も名^なめ^めい^いち^ちの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 お^おち^ちの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 く^くの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち

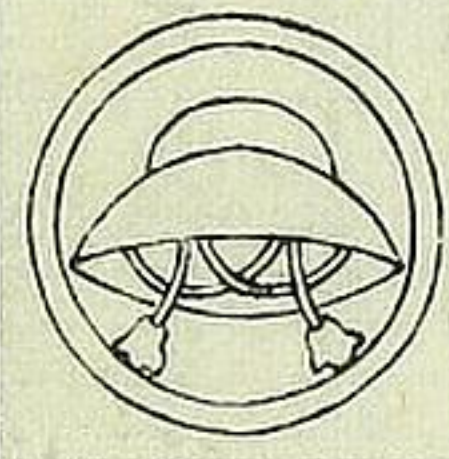
り^りと^と殊^{こと}勝^{かち}ふ^ふ留^{とど}留^{とど}の^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 お^おち^ちの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 甘^{あま}ん^んが^がの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 婢^{めかけ}女^を小^こい^いの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 障^{さや}子の^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 志^しあ^あわ^われて^て西^{さい}渡^わの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 ま^まじ^じの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 横^{よこ}笛^{ふえ}あ^あら^らう^うの^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 の^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 の^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち
 他人^{たにん}受^うて^て清^{せい}の^らい^ひも^む人^とと^せれ^ばの^ち

そのまゝのうゝみ... 藤原長頼のまゝのうゝみ

まゝの藤原とかくの正てその後天... 入るが衣被るごとくしておひしが... せしごと

相良

左大臣武智麻呂四男乙麻呂
後胤遠江守維兼八代大膳大夫
頼敏男
藤原長頼
相良三郎



相良三郎長頼
遠江

長頼が祖をいふ維兼天曆の... 任由ありてお良小後一其の維

頼忠 佐原六郎
頼細 相良小藤太
頼之 高橋左近將監

其の父竹邑ハ高倉院の御... 長頼之孫会及小後一功あり... して大なる小會とありて... 小後一

高橋

相良長頼三男



高橋左近將監頼之
参河

藤原頼之

高橋左近將監

頼季

弥三郎左近將監

頼重

内田三郎

頼明

富永庄司三郎

頼氏

荒木弥三郎

頼村

上村四郎

為頼

八郎

為貞

九郎

頼永

犬童九郎左門

頼春

高橋弥三郎

とほふは... 藤原氏

原田

秋月

後漢靈帝孫阿智王十三代
大藏谷春實七代

大藏谷種直
原四六郎大夫
太宰少貳

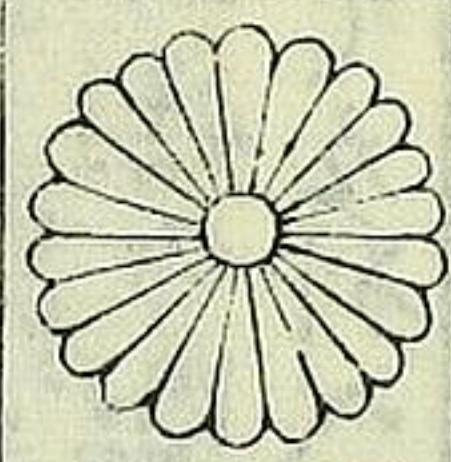
種雄

秋月三郎

種成

原田五郎

中つるこの後... 種直の孫... 種成の孫...



原田六郎大夫種直
筑前

後漢灵帝の孫阿智王孝徳天皇
白皇のとき... 種直の孫... 種成の孫...

橋公長 右馬允

公忠 橋太

公業 橋二薩大守

公美 薩大十郎

公貞 薩大与一

相子小三郎平頼門と合神して南海めて叛逆の府
を保護するを擧げし其時にして日守に和郡
とありし大なる元公忠の遠保が後裔を引くるの答
せよと一平を以て居て新中納言知事のありし
とありされど常は源氏を志して治承四年十
二月より三人孫念ふありて右幕よりはく嫡子

と思ふ二男の公業ともよき道の道公おとらむと文治
四年夏別巻衛仁界の時と公業武功大いありあり
同國小桑橋をとりて経をも又中八惟平も同時
功ありしより出ぬの由中利をとりて建久元年
公忠が孫堂大河の氣保に大か不敵のものありし
より孫念ふとさうきとて治承四年山本より身を隠して我子
おとらむと公業を者をかきし一擧げに止むるは
公業が孫念ふとさうきとて治承四年山本より身を隠して我子
おとらむと公業を者をかきし一擧げに止むるは
公業が孫念ふとさうきとて治承四年山本より身を隠して我子
おとらむと公業を者をかきし一擧げに止むるは
公業が孫念ふとさうきとて治承四年山本より身を隠して我子
おとらむと公業を者をかきし一擧げに止むるは

惟平勇まゝふとらどもおぼすも付あられき
 もさも小付記さるる業の敵よきとて夢とひく一
 あもるるをいづらもまゝに落たりしやう一
 後進のふと業の付記一惟平の逐電せりて右幕の
 是と夢のいふまゝにひくせん業の落たりて惟平の
 付記せしあはれと夢のいふと後の後進の付記
 そのとらはれはあはれい人こそはれはれを
 のふとまゝに落たりてをいふと業の落たりてはれはれをいふ
 軍の利をいふと夢のいふと惟平の勇
 くのまゝに落たりて血をいふと夢のいふと惟平の勇
 付記せしあはれと夢のいふと其の夢のいふと
 を感ふるもるるれは業の付記せしあはれと夢のいふと

らまゝに落たりて業の落たりてはれはれをいふと
 集あり付記の勢のさるる業の落たりてはれはれをいふと
 均の後進をいふと夢のいふと又其の夢のいふと
 といふとありてはれはれをいふと夢のいふと
 け女も夢のいふと業ありあはれと夢のいふと
 一人の夢のいふと夢のいふと夢のいふと
 本夢のいふと夢のいふと夢のいふと
 るありといふと夢のいふと夢のいふと
 夢のいふと夢のいふと夢のいふと
 移んごうと夢のいふと夢のいふと
 ありて夢のいふと夢のいふと夢のいふと
 あはれと夢のいふと夢のいふと夢のいふと

八公業と隣らふふあつたはる業お成はて酒宴
 おつと更一客のう王ははよて小産家の板屋不群
 とさふさんと堀兵衛しりるふとりのあしりるの村
 くくと月の光もあかりれての、新入ささるるささるるに
 あやや陽の堀どののささるるものありあや曲者ささるる
 きてささるるとささるるささるるささるるささるる
 かりく紙すめて袖あまであつたをささるるささるる
 よりの細いあんと是ささるるささるるささるるささるる
 女のかかり雨のささるるささるるささるるささるる
 てうちあさるるささるるささるるささるるささるる
 いえんと業も恍惚としてるあもいささるるささるる
 きささるるささるるささるるささるるささるるささるる

清きりしあひて越へ岡えりあさるるささるるささるる
 知ささるるささるるささるるささるるささるるささるる
 のりささるるささるるささるるささるるささるるささるる
 とりのささるるささるるささるるささるるささるるささるる
 朝親いよく後よすえこのささるるささるるささるる
 信ささるるささるるささるるささるるささるるささるる
 てと浦一黨の家家のささるるささるるささるるささるる
 つる又新産屋氏武田山ささるるささるるささるるささるる
 せんと馳集れの強倉中のもものささるるささるるささるる
 持ささるるささるるささるるささるるささるるささるる
 を強助ささるるささるるささるるささるるささるるささるる
 めてあ蔵ささるるささるるささるるささるるささるるささるる

子細と愛とつけて双方と結成しとまゝの業ありとて
 うらまの申候やしてともかくも和田が志おまゝのん
 とらども親親の彼妾の妬み骨髄は徹してこゝろ
 がくこゝろは味方の多き候人のいで義登のこゝろは
 用ひざらうて義登三浦の人の中おありなるの親
 の業にせざる意親もあつて私のうらまゝ候りて合戦
 と申ふること言信道あり義登の申も一門の
 株梁とて陣は尚候なるこゝろはふらうて双方の
 利平をなすもあゝとて候て候て候て候て候て候て
 親親にす一札の合戦はる運よひとて候て候て候て
 人とゆゑんの程まの沙汰あり又守をさぐ候て
 ひらりも候て候て候て候て候て候て候て候て候て

けあへ申さるゝとて色を業よはる擧げて一戦おあぐん
 とて一族のこゝろをゆめとて候て候て候て候て候て
 のありつれどもけあはれかふ款とて候て候て候て候て
 業にたれば双方ともおあぐんぬ是も業は一門の計
 男をりけ由津新へとて候て候て候て候て候て候て
 怒りよとて候て候て候て候て候て候て候て候て候て
 さうとて候て候て候て候て候て候て候て候て候て
 の親親あり又とて業ありおあぐんぬとて候て候て
 候て候て候て候て候て候て候て候て候て候て候て
 おあぐんぬとて候て候て候て候て候て候て候て候て
 うられ女とありてありしが候て候て候て候て候て
 又つけらる擧めとて候て候て候て候て候て候て候て

金倉山金

二篇下三

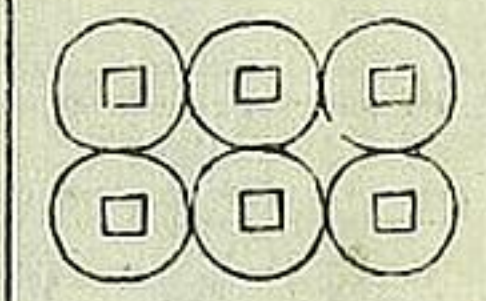
むすの衣級めてとらふ事と是と廠院あふ血の
つくるさあ赤くして軍のれきるるがごとくよりて赤軍と
稱さべしと倫ありけし御子五侍九の血級とあり
もつこ二人と守りて國のけし御後玉あひて所
領瓜賜ふ赤軍菊池とたよ南カ別のとも也

海野

清和天皇御子貞元親皇九代
海野弥平四郎幸廣男

滋野幸氏 小太郎
左工門尉

幸繼 小太郎
信濃守



うんのさあゆんのせうもむさ
海野左衛門尉幸氏
信濃

清和天皇の皇子貞元親王始りて
滋野の氏とあり其の子小太郎
幸繼よそのあり皆信濃守

りり信と嫡子と小太郎幸廣とらひ二男あり
彌津よ信と稱す由と稱す三男重俊子月小
信と稱す子月と稱すと信と交ぬる七代と信平は幸
幸廣と交ぬる二年海野中水信の合戦に討たれ
その子小太郎幸氏初雅のより小太郎は信
小太郎と右藤平と小太郎のい義仲のい子信
水の冠者義高の信とて信舎人おむる時幸
信同と稱す信よ義高のい信とて信舎人おむる時幸
のころ義高のい信とて信舎人おむる時幸
い信女大姫との信とて信舎人おむる時幸
中とて信のい信とて信舎人おむる時幸
旭守軍と稱す信のい信とて信舎人おむる時幸

海野世監

二篇下三

右幕下御返討の院宣をのりたるは鎌倉の討
たしむけらば御返討は御返討にて是件は御あり
さむべきはそのまじにて野合の御返討は御あり
づこひの御返討は御ありと堀首二御返討は御ありと
けるも御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
どりも御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
るも御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
中して幸氏の御返討は御ありと御返討は御あり
なるも御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
ゆの御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
ありと御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
ありと御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり

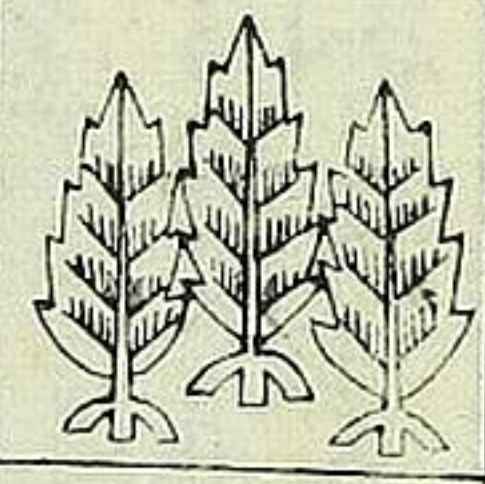
双方の御返討の絶えりしゆりの御返討は御あり
と御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
りも御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
者二御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
ゆの御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
て御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
ひの御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
の御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
と御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり
も御返討は御ありと御返討は御ありと御返討は御あり

らきつゝせいさく春内か首級うちてぞえん上りる
 天命よよりて養ふは書一妻あぢもあぢ又こも
 首を刎られつるもかかあも先流が石蓮の
 布とそあの色され姫もまきひらめくあつあつて
 終よままがりまひぬさて又幸氏の日記終て四救免
 とかろむり中領安堵して鎌倉屋小はて忠厚と
 ある勇我の夜行あも足手よりさうりあひは紙と
 肩ひのうき後あくの軍は切あり後守平月夜
 ともりて今田塔系田次郎谷系あつてこま一
 族ありの代々伝流は後して子孫あつて

緒形 白杵

大太夫惟基三代
 大神惟用 太夫

惟隆 白杵二郎
 惟榮 緒形三郎
 兼朝 豊前守



緒形三郎惟榮
 豊後

源 八十一艘とせり
 八十一艘とせり
 合志長井野中
 源氏よそむく見惟隆の源氏子
 志一はるる
 源氏よそむく見惟隆の源氏子
 志一はるる
 源氏よそむく見惟隆の源氏子
 志一はるる

者ありしをいふは... 二八... 月... 娘... 唐...

あはれ... 娘... 唐... 月... 娘... 唐...

録録正録

首領一丈と号く是則三輪の神の紀現しあり
とてりて向拜法形へける縁ありとて

天野の

参議乙巳員代遠江守為憲
五代入江三郎景澄男

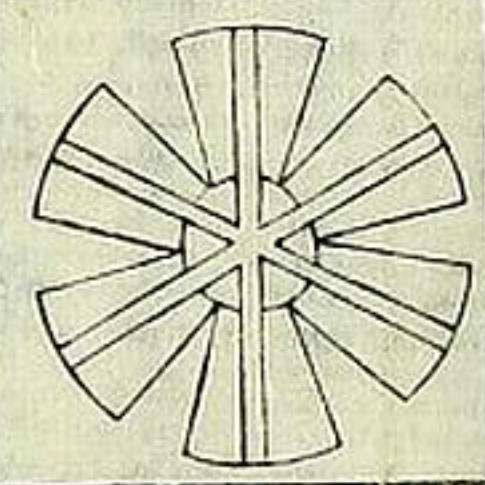
藤原景光 天野三郎

遠景 藤内 民部丞
右兵卫尉

光家 平内

則景 六郎 右馬允

政景 二郎 左卫門尉
和泉守



天野民部丞遠景
伊豆

をまゐの武勇絶倫あり始内舎人
とありなりて夜内と稱す
伊東持野とも同流の裔あり
父景光伊豆の守ありて
氏とて佐藤氏とのとてり
毎二の味方とありて軍

戦功多し又其の
後景光は平家とて
尉の位にありて
家光の位にあり
事ありては
すゝとて
系は
のり
景の
系は
和泉守

鎌倉式目録

二冊下七九

鎌倉御武鑑

鎌倉御武鑑

初篇
二冊

長祿
年中 江戸御繪圖

本田さうざん
こゝろて江戸
小城とまきうら
のふのふ

同 二編 二冊

寛永
年中 江戸御繪圖

古代ゆつじの
多うり

同 三編 近刻

文政
年中 江戸御繪圖

品々

足利家御武鑑

初篇
近刻

年代記類

品々

泰平御武鑑

全冊

道中記類

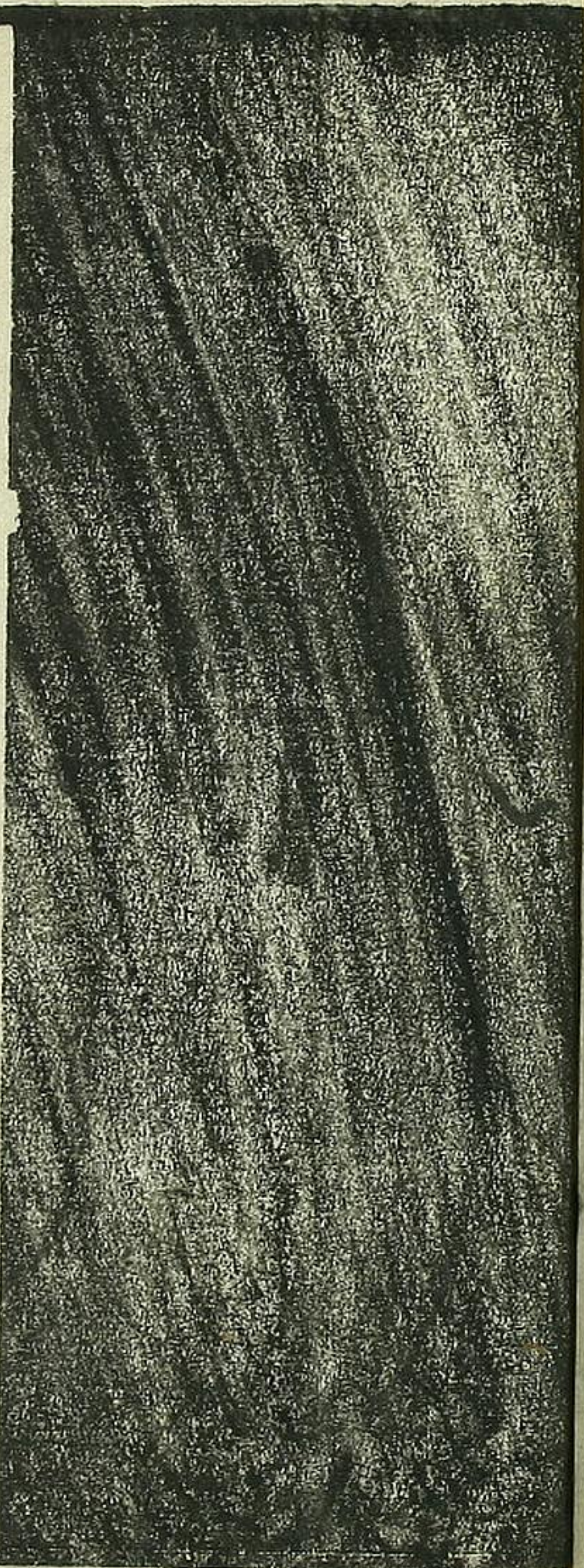
品々

御見附畧圖

一枚摺

子供早學問

大本
中本



江戸小傳馬町三丁目

書肆 葛屋重三郎

文政三年庚辰
正月發行

同 馬喰町附木店

全 江見屋吉右衛門

